

儿津 2
165
4

西洋新書
三編
上



瓜生先生編輯

西洋新書

三編 全部

東京
書林

寶集堂發兌

官 許

津門
號 165
卷 4

東京
學校

藏書

西洋新書三編序
 頃者西洋新書三編脫稿屬余
 余以謂是書初編二編既上梓公
 干茲而其序皆述書之大意略備
 余復何謂乎哉既而又覆閱之猶
 有所未足瓜生氏嘗好諧詼所著
 數本皆適於人情能令讀者或忘
 憂而取悅或好善而惡惡蓋不可

謂無裨益于世今復更著實際紀
事之書亦使童蒙婦女知海外地
誌歷史之一斑方今文運日進操
觚之士竭盡智力從事編纂者無
慮數十家然文意艱儉俚俗不易
解者儘多以諧詼之文記實用之
事俾齠童兒女如讀坊間小冊子
樂而不倦者獨瓜生氏之著羨然

其有裨于世教何如耶余因不辭
而作之序

明治五年壬申仲秋

植韶泰通題并書





印度洋

印度

暹羅

爪哇

蘇門答臘

馬六甲

檳榔嶼

泗水

三寶壟

巨港

望加錫

安汶

邦加

勿里洞

巨港

三寶壟

泗水

馬六甲

檳榔嶼

爪哇

蘇門答臘

印度

印度洋



朝鮮

日本

海峽

釜山

大邱

漢城

東京

神戶

大阪

京都

奈良

和歌山

高松

松山

岡山

広島

尾道

下関

釜山

大邱

漢城

朝鮮より
日本へ
海峽
釜山
大邱
漢城
東京
神戶
大阪
京都
奈良
和歌山
高松
松山
岡山
広島
尾道
下関
釜山
大邱
漢城

上の巻 目録

○ 亞米理加及びの説

○ 閣竜のそとまり

○ 「バルチモール府」の説

○ 「ロング島合戦」

○ 亞米理加勢放ちの説

○ 白原戦争の説

○ 華盛頓氷と渡つて

○ 突連登城と陥る説

○ 「チャドスホルド戦争」

○ 華盛頓府のそとまり

○ 墨是哥「アカボルコ」の説

○ 華盛頓「紐約」出張

○ 十三及び「檄文」廻り説

○ 華盛頓謀計

○ 兵と紐約へ引揚る説

○ 華盛頓一計

○ 波林斯城と陥る説

○ 「ベングトン戦争」

○ 亞米理加勢敗走の説

○ 「スチルワートル戦争」

○ 英将「ビルゴマン」降参の説

○ 合衆國旗章の説

○ 約邑戦争英将

○ 閣竜華理斯降参の説

○ 「ブスリステット」華盛頓の賛

下の巻 目録

○ 費勒特費府

○ 市中の雑説

○ 英吉利勢敗走の説

○ 日耳曼邑小

○ 英亞戦争の説

○ 英亞「モンモルツ」戦争の説

○ 英亞和睦

○ 華盛頓大統領とる説

○ 紐約府の説

○ 新文紙の説

- 新鑛道の説
- 啞院の説
- 学校の説
- 芝居狂言の説
- 合衆國大統領
- 歴代畧記
- 拔答責亞港の説
- 病院の説
- 盲院の説
- 文庫の説
- 世界の大艦の説
- シントウインセン島の説
- 「ロウアンタ」巷の説
- 香港の説

通計

三十五條

西洋新書第三編卷之上

東京

瓜生政和編集

○ 亞米理加及びの説并 閣竜のそま

亞米理加とい西洋語より新しき世界と云ふ多あり又一説小
 亞米理加ハ波爾杜瓦爾國王の臣下よりて亞墨利屈氏多者既小
 初編の條下小説より閣竜が大功と羨と慕ひ閣竜が航海の始
 めより十五年の後彼千五百二年今より三百八十年前亦
 航海して其地の南部の國「テルラビル」今の瓦辣那多之地
 小至り其土を開拓めると夥しく大い小地理と究め物産と

尺一たりたりあり 亞墨利屈氏の名小なづきしけ称ありと
 も言へり然れど亞墨利屈氏の名を以て國小負せんより
 へ閣竜の名を國小附し閣竜州と稱へて當然のよりと
 諸書小論せり

「ボガルト氏閣竜を讚せし一書中曰閣竜亞米理加
 州を尅見して蓋世の偉功と著へせしを以て其古より
 熱穹亞の人は是と如し誹謗する者少をゆらず一時客
 来り種々の説話の序小閣竜と誹りて云ふ足下が
 新規小國土と見出しるハ實小偶然の僥倖小して
 深く是と稱賛小足らんやト閣龍聞て打點頭真

不然ありト言て傍と顧み茹る鶏卵と採出し客小
 對ひ足下試ふハ鶏卵と
 以て机の上小卓て見ぬ
 客ハ頭と打振りて争う机小
 鶏卵と立ると得んやト言
 ふ時小閣竜鶏卵と採りて
 尖まる所の先と欠き平ら
 う小して机小卓より客是を
 見て先と平らう小為さむ
 誰めても是と卓さらんや



閣竜云ふ然り唯世の中のみへ爰ふ心と附べきあり
人け処ふ心と用ひへ何事も做し難き理あるべからず
吾亜米理加州と見出しるも何ぞけ理ふ異あらん
やト云ーとて

前編ふ記しる合衆國の首府華盛頓の創建は彼千七
百年今より八十二年をどあの頃ふりてけ刃英吉利の
所屬と離と不羈獨立の國と成りこども未だ總國
の首府と定る所あり因りて政事と出すの府と營むべ
き勝地と擇ふべし時「新紐約府」人口十三万「波士頓府」
人口八万市街相連つて最繁華の互市場るれども大

政廳と置き若軍旅の大事件をどある時ハ敵と引請防
禦と堅固ふするの地形ふあらずとて終ふけ土と拱こ新
ふ繩張して土木の役と起しけ府と大いふ造築あり稱し
て華盛頓といふ然とも其始め兩三年の間ハ尺一ト町
も人家の連続しへるけけ彼處ふ散在して互ひ不用と
便ずるふ不都合ありしが彼千七百二十年今より六十二
年あの頃ふ至りてハ人家一千七百軒人口九千二百餘其
中白哲種五千九百餘人黒種二千三百餘人まゝ其後
ふ至り「ホトマツク川」の岸ふある「カルレストウン府」及び其
周辺の大小の村落ふ住する人数と合して二万餘人と

成りしと云ふが彼千八百七十二年の今日に至りてはすて
前編の書記せしが如くあり

同列の内墨是哥國の地へ今より三百二十四五年お小
伊斯把泥亞國の名譽の猛將コロテスと云ふ人一軍
と率ひ來り此地を取りしより去て新伊斯把泥
亜の名号あり然れども今共和政事の國と成る
は地ふ三ツの都あり一ふ「墨是哥府」二ふ「キアタルセ
イラ府」三ふ「キアチマラ府」何れも繁昌の市街あり國
中ふ廣大なる銀の鑛山ありて白銀と産するて夥し
きふより富貴の者へ常に乗る處の車の輪と銀ありて

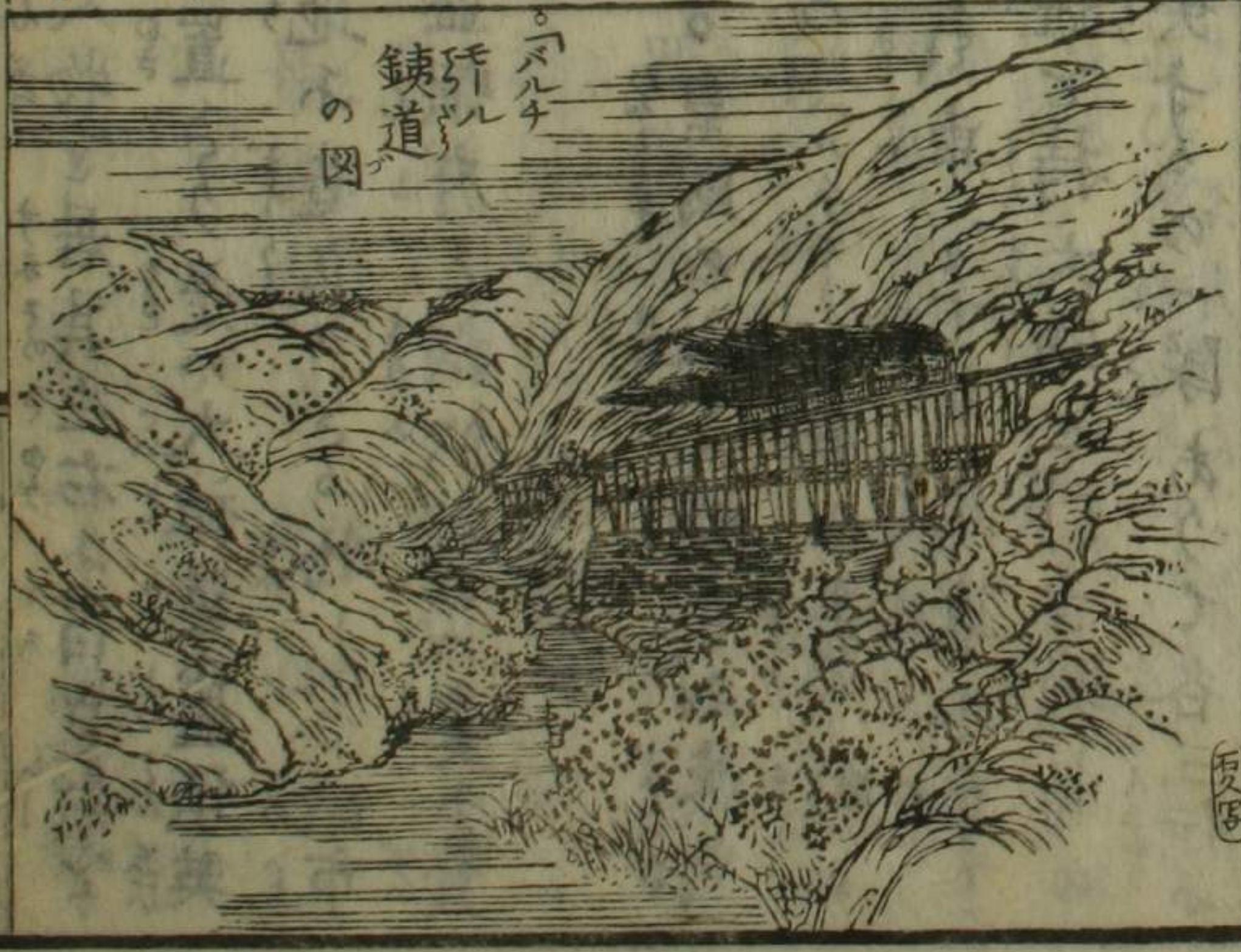
造る程あり今日日本支那とて通用せず弗銀は皆
此墨是哥ふて産するものなり再説する第三の都「キヤ
チマラ」の近き傍りふ「アカボルコ」と云ふ港あり墨是哥
海灣中第一の繁華ふて三都ふも劣らざる所なり一が
彼千七百九十八年今より七十四年お小大地震あ
りて港の市街半分は地中お落入り残りたる家居
も或いは潰れ或いは焼失し人死するて夥し是ふ因
りて終に廢蕪し今一ツの村町と成往たりは此處に
「サンフランシスコ」より「巴那麻」への船路ありて墨是哥灣を
往來の船は或ひは一日或ひは半日碇泊するの港をねが

前小包巴丹船の條下不記すべきと書漏しとせば
華盛頓府と與廢の差別ある不對して爰不出す

○マレーラントバルチモール府の説

バルチモール府ハ季候華盛頓府と整くして華盛頓府
より北西の方へ離るる二十七八里の処不在り家数三
万軒餘人口三十万府内市中の往來ハ井字不して東
西一里十五六丁南北一七七八丁あり當所ハ古くより在る
の市町るれども彼千六百年今より百二年おの頃
ハ人家猶千軒不と成一と云へり府下と流る大河三
筋ありて其一筋ハ市街と貫き通り人の家の軒下迄

船と自在不寄るる故不諸
品貨物と小船不積て出入
する不便利と極む地ハ産
物多くて亞米理加中不出
るもの一ツとして非ずと云と
あり府の入り口不二重作り
の石の大門建つり又市中
の中程不横五十間余豎二
丁ハいの廣場ありて其中央不
白き石と高く積揚上白き



蠟石と以て刻する立像の人物と居其左右に白石と
 以て造りたる大いなる鷲を置たり是は大祖華盛頓英
 國との戦争に勝利のち當地に造立する物とぞ以て市
 街各物の損耗に都て華盛頓府と相似たれば爰に贅
 するを劣く

再說華盛頓府と出立する皇國の人々の頻りに蒸気
 車と走りて益四半時より「バルチモール」府に着し町の
 入り口の石の大門にて蒸気車と下り馬車に乗る
 移す兵卒四百人ほど小銃と持大砲と引き騎馬の
 者百六十人まで音楽と奏するの一隊ありて各三行小



市中の水菓子歩くの姿

並びに警衛を其外消防の兵卒
 八隊ありて一組々列立
 何れも蒸気を仕掛たる車の
 上へ「ポンプ」として水を吸ひ揚る
 器を乗せ引せ階子に
 荷けたるのありや鳥口に似たる
 道具を持し者ありて固り
 最嚴重なり斯て徐々と進
 んだり市中の左右に三階
 四階より七階八階の高樓魏々

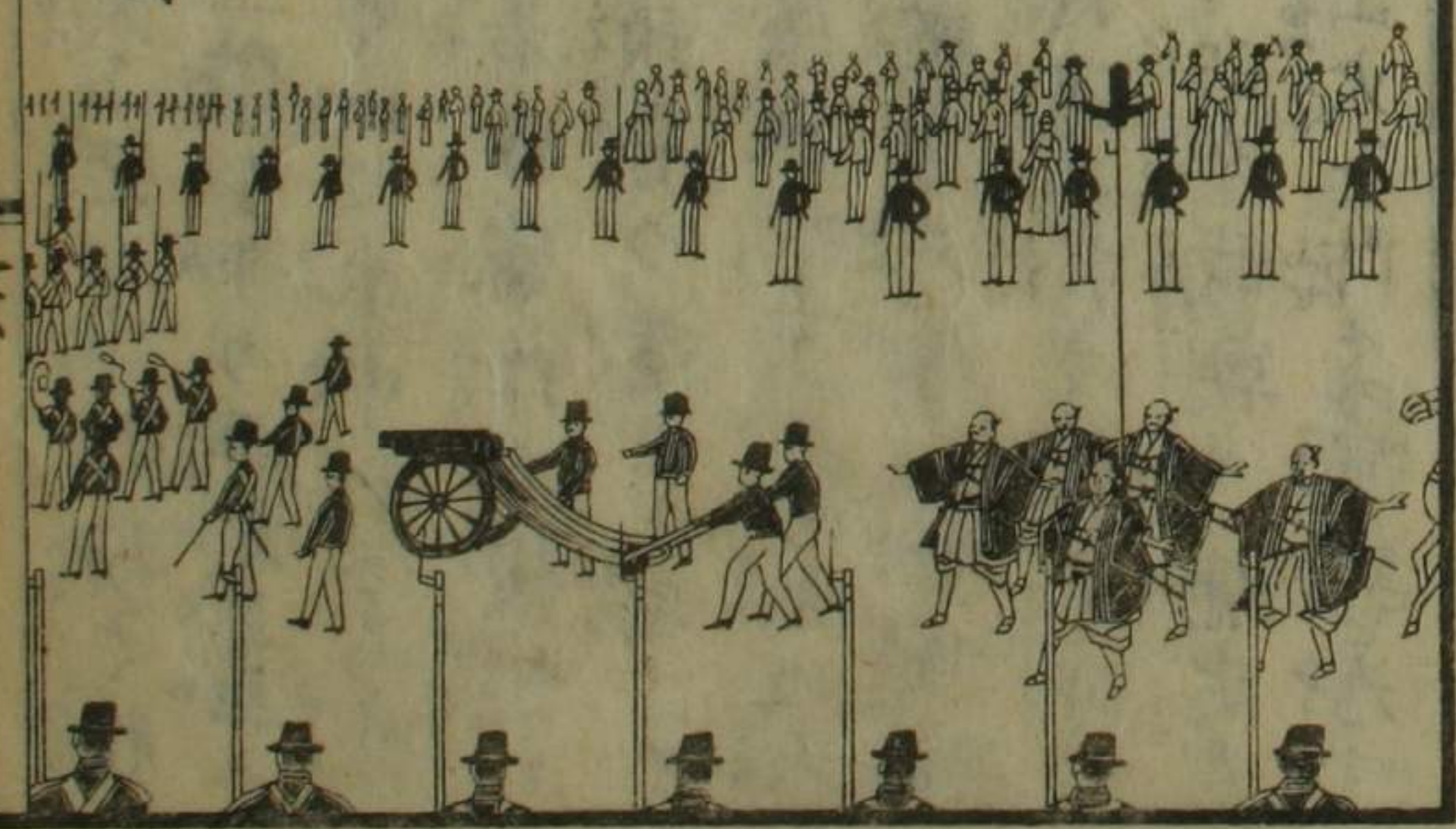
とくく山の如く小建並ひ見
 物人の家々の窓乃中往來の
 両側小群と並ひ居て男の冠を
 脱ぎ女の手拭を振り或ひる
 日の丸の旗或ひは大日本と書
 る旗と打振り祝賀する者
 雲霞の如く往くと二十七八丁
 武器を製造するの館に至り
 門前まで車より下りおの館の
 二階へ登りえろふ室内いと

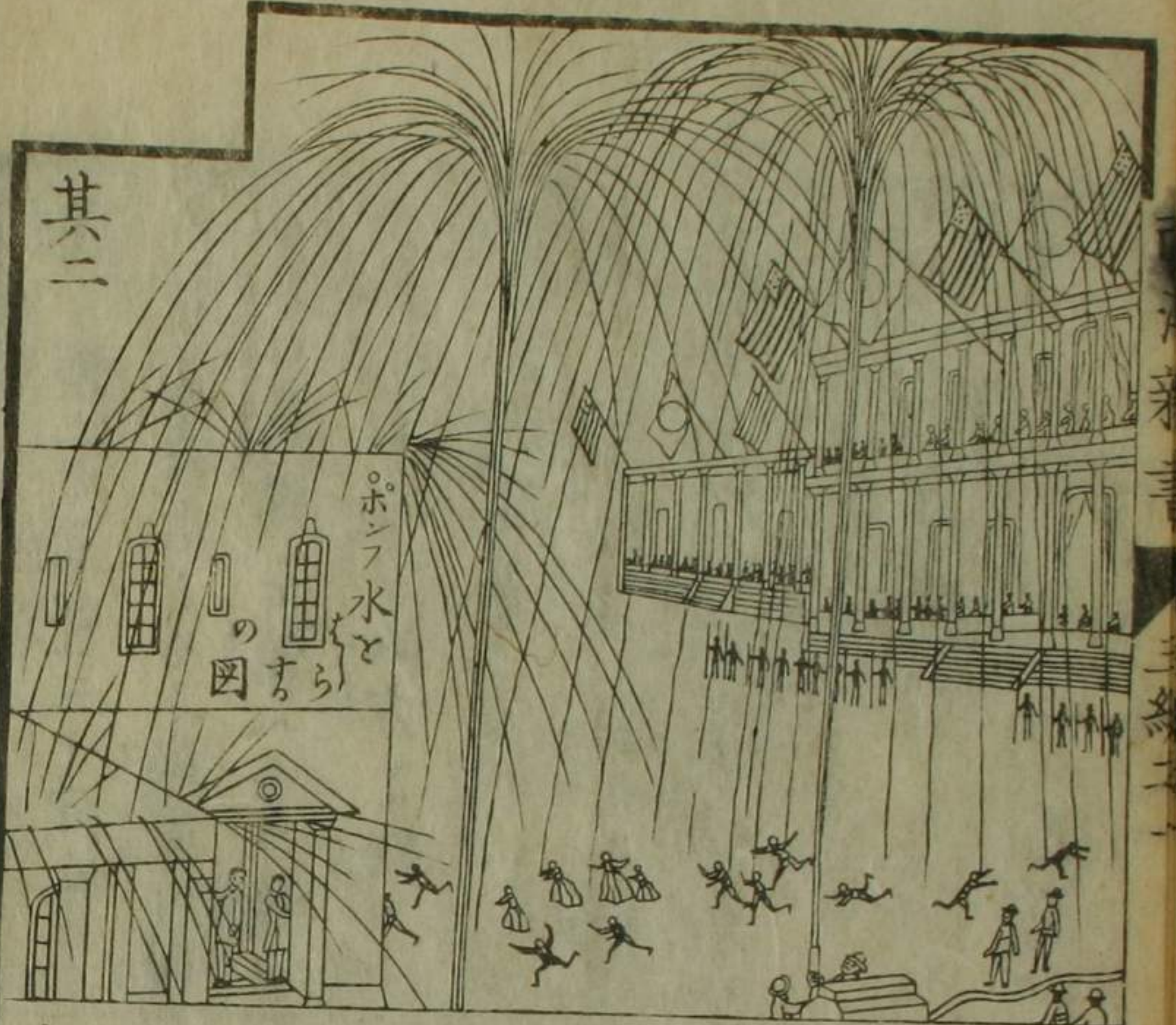
一其



廣く横二十間堅三十間余ふ
 り前後左右とも小棧敷と構
 え紅白黄紫を雜へたる種々
 の草花を彼方此方より飾り中
 央より高臺ありて我朝人此
 處小休息する小四方の棧敷
 よい見物の婦女童蒙花毛
 氈のうち小充滿し廣場よ
 兵卒二百人餘隊を組列成
 分ち小銃を携えり調練は

○聖國
 日本
 人
 請待
 の図





其二

我朝人小見せしむ斯く後
 まご二階を下り再度馬車小
 引きこて未中刻ら旅
 館小着は家作の模様ハ
 華盛頓府の造りと同ドク
 去る屋根の上小日の九の大
 旗を建ち夕暮に至り旅館
 の高楼下小於く彼の八隊の
 消防の兵卒我朝人へ馳走と
 しく出火を防ぐの運動を為て

見せしむ其松へ一組合小ツツ蒸気の仕掛あり車と引來り
 所々の水道の井の中より「ポンプ」を以て水と揚る小高さ二十
 間余小及べ水ハ四方へ散乱して群集あり見物人の
 天窓の上より落り蛇然瀧の如くあり人々是れ周章狼
 狽四方へ快乎逃走騒動涌が如くあり階子の長さ小至
 りてハ十二三間のものみれども取扱ひ実小も軽し
 階子「ポンプ」の多ハ小記しる條と見合し知るべし
 「ポンプ」を揚る水夥しけし往來眼を行潦とあり速立と
 り暫時小く火の鎮まりし振と示し元の如く小列と組
 備と立て引退げば是れ代りて押出に來る兵卒凡五百餘

其三



人各隊列を別ちて以て早打の調練をみす兵卒が小銃の扱ひ実不自在を尽しけり斯てまゝ夜ふ入といひ花火を揚て是と見せしむ仕掛のユモ甚ど面白く打揚り煙りの中不横文字と以て日本人の着と賀するまゝのみと現す
 花火の撰採ハ華盛頓府不記しとるをてて知るべし
 一宿ふくは一日朝四時

旅館と立出で直火輪車に乗りてワルチモール府と辞去り「ヒラテルヒヤ府とて進こける」
 「ヒラデルヒヤ府より」新約紐府の條下不至りての記す
 べきと沢あるを暫時爰不筆と止め前不半途ふりて
 打捨置る英亞兩國の軍事と再度携出しそその
 残るとを補ひ塞ぐおるん

再説彼千七百七十六年三月十七日英吉利の大將「ゼ子ラアル、ホウの亞軍の総督華盛頓が奇計不陥り既不波士頓府と突き去りし」と雖も前不新約紐府と攻取んとて波士頓府と出帆する英吉利の総督

一ジハ斯る事とハ知らざれば猶も数艘の軍艦と次才と
 押進め既ハ「新約紐府」の港内近くハ切迫一府内の容
 子と窺ひけり。華盛頓豫て大将「レイ」と「コン子チコ
 ツト」の兵と募り「新約紐府」を守らせ置と。バ「レイ」ガ方
 より英軍数艘を港内へ乗り込んとするは、この注進
 頻りありければ片時も捨置難しと。華盛頓ハ同年
 五月十五日総軍八千と引具し「波士頓府」に出陣し「紐
 約」へぞ進發あり。抑「紐約府」ハ合衆國最大一の繁華
 の土地也。華盛頓入府ありて嚴ハ備へと立んと。然ハ
 未熟の新兵のこあらず器械之不足あり。ハ配り更ハ

自由と得ず困苦ハ思量と費す折々「加拿陀」の合
 戦味方敗走あり。注進ありて頻りハ援兵と乞ひ来り
 是もまた「已」と得ざらん。然らぬハ不足の味方の中より
 十隊の兵と擧り「加拿陀」應援とて差つ。ハ「トリ
 ントン」者竊ハ英吉利ガ降参り同志の「トリ
 ントン」の各と談合華盛頓と俘虜と。英の軍門へ引
 渡さんと企てり。ガ「隠謀」忽地露顯して彼の賊徒らと
 英軍へ逃込んと。人心是より疑惑と生じ互ハ心
 と置合ひて何とる。平穩あらぬハ華盛頓是と見て大
 敵とあハ請け斯の如く。ハ逆も勝利を早く

國人の心と固むる不如此と思惟一費治彌亞那の會同館不
あいて衆議と遂させ白羊の皮不措書と以て同盟の十三
那ハ断然英國政府の管轄を廢し自今弥獨立不羈の
國とす又國名と亞米理加十三合衆國と唱ふる由と書記
一各那不布告ありりりり府々村々不て鐘と撞炮を放
ち人々祝賀し喜ぶと大方あらず是が不軍兵の心と
揺動し十倍の勇氣と添りりり案下再說英吉利の大
將「ゲージ」ハ「紐約」と責とらんと陸地の摸ねと窺ふ時
一も「波士頓府」の大將「ホウ」ハ「波士頓」より総軍を引揚来
り「ゲージ」と一不成りりり「折」り「ゲージ」ハ本國英吉利

一呼戻さど「ホウ」を以て「ゲージ」ハ代り大総督とありけり
「ホウ」ハ早く「波士頓府」と追拂りとする耻辱と雪ぎ清めん
と種々不軍慮を繞らして其容意とぞるりりり爰不
まゝに亞軍の大將「ゼ子」ラル官の「グレシ」及び「ニル」リワンの
一万五千の兵を將ひて「ロン」グ島不也集あせり大將「グ
ン」病痾ある不因て大元帥「華盛頓」の指揮不従ふ「ゼ子」ラ
ル官の「ロユ」ウトナム其將帥不代りりり時不八月廿七日英の
軍勢三万餘人数艘の軍艦を漕りせ来り「ロン」グ島
の三方より押上ねば亞軍の大將「ロユ」ウトナム「ヒユ」ルワ
ンも兵を率いて討て出り英軍ハ不数の大砲を真先

西洋行書 三編之一

不連ね小銃の巢口と一列不揃え同発連発隙間を
 打掛く来るる丸の音さの礮打浪と声と
 合して夥る勃々たる煙の色不の天空の日も光りと失
 かり不如何ある悪鬼羅刹の隊もは猛烈不出逢
 ての微莖不成るべく見えたりけれども亞軍の大將ト
 トナムの大膽不敵の剛勇あるは且て是らと物ともせず
 前路より攻来る英吉利勢と二歩三歩或いは五間十間
 づ追捲り討退ぞけ勢ひ盛大ありけりとも大將ト
 病病不代り今参りのトナムあるは土地不案内
 不て防禦の配り薄うけりとも英軍早く間道より進

トナムが勢とトニルリワング勢の後背へ出亜軍と狭んで討
 立けとバ兩將不後不敵と請兵卒是は狼狽して隊列忽
 地紛乱ありけり時元帥華盛頓ハ「紐約府不在りて
 敵船の摸探と窺ふ折々風俄不吹起り草木海上へ靡さ
 けとバ當府へ敵の寄せぬと知りコング島の合戦心元
 直ち不駿馬不跨り飛が如く不走りてコング島の戦城
 近き不至り小山へ走せ登り遠望鏡と以て望みん不味方
 既不敵軍の為不狭し圍まを討あり逃るあり俘囚とある
 あり降参するあり斯る中不猛威と落さず必死と攻撃す
 るもあり大難苦戦の体困迫極りて見えりとも華盛頓ハ

「嗚呼とぞり 霎時忙然とるが 稍ありて 大息つき可
惜 武勇の兵卒と爰に空しく失ふとよト 衝立たるを愁
然とる時 日色西山に没し 晩に向とるに至り 英軍兵
卒と纏るの摸拵あると見て 少しく胸と安んじ 追々紐
約より走付来る軍勢を早く 諸方へ分配し 逃散り
たり」 ロング島の敗兵と尋ね求めけ地へこそへ集めたり
けと 今日 合戦大将「グレン」が 病氣と「ヒュトナム」が 地理
不案内よりして 斯る敗軍と引出し「シユルリ」を 始め一
千餘人の兵士 英國の手へ陥りたり 然とば 華盛頓へ 敗
軍の兵と控恤 休せ自ら 陣中陣外と 夜廻りて 用心いり

嚴重あり 斯て翌日 小至り「マンハッタン」島より 新手の一軍 應
援とて 来りけとば 総勢少く 色と得たり 華盛頓へ 今
新手の加りたる上 少くも 宥豫すべからず 今宵 敵軍へ
夜討と仕掛け「ロング」島の 訛と報えと 諸軍勢を 令と下し
容意いり 急速るとは 是什麼り 斯る 疲勞の兵とて 勝
誇つる 英軍に 蒐向るとの 計 技 薪と抱いて 火小入るの
とく 小非ずやと 兵卒ら 皆私語 誹とば 華盛頓 耳へも入れ
ず 日色 閑るると 待進軍の時 来ると 忍び 小整列を
し 総軍 支度 出来るや 否や 病人を 負と車に 乗せ 拙重
と 荷ひ 負へせて 敵軍の方と 後方 小あり「紐約」に 総軍

西洋新書 三編之一

と引揚るて迅速あり是華盛頓が一策ふて華盛頓へ英軍の
寄せ来らんとして恐と「紐約へ引揚んとす」とも総軍は九
千ふあまり其中小手負病人多く器械彈藥糧糈少
あらねば敵不知らきて追討さると必定あり然りとてこの
困兵ふて英軍と迎へ戦んと成難けと諸將のこふりと
含め斯へ計らふものありとぞ儲こそ英吉利の陳營の
者忽地走せ来り今宵亞米理加勢討入り来るとの注進あ
るに其大膽と呆と果去来と狂気武者と取控んと
配り嚴重かく待つけとと夜明不成りても攻寄せがれ
竊小亞軍の陣營と窺へす小空々々る廣原とあり更ふ一

人の敵も有らねば初めて「新紐約へ引退せき」と知り大將
「ホウと始め諸勢一同足摺とる悔ふなり華盛頓へ「紐
約へ引揚るまで三日三夜の間に多く馬の上小跨り居て一睡も
あさりられれば流石小身心疲」とも猶諸勢を励まし
英軍と「紐約府へ引つけ一戦と遂べく思ひたり」然る
に勝敗小係らず府中の市街と荒し諸人小難哉と掛
ん如ずけ地と英軍小渡し暫時他所へ避んふへと衆議一決
あけ急ぎ諸軍勢と纏め「紐約より北へ十三四里離れ
「白原とりの地まで引揚る」英軍の総督「ホウは是と聞
直ち小「紐約府へ押上り統とて「白原へ追慕ふ華盛頓へ早く要所



華盛頓
の陣

と占きり畑中不列と唐黍の売て
根こぎやて其根と積あげ一帯
の玉除土子と築立たり華盛
頓の戦ふ毎不必ず胸壁と築
くと常とみよと士卒もらつ
術不熟て斯速くふみの成り
たり斯在―処へ英吉利勢は早
追ひ迫り勝誇りたる癖あるが
我劣らと競ひ掛れど亜米理
加が彼の胸壁の蔭より出

没自在不働して元帥の指揮まじ
の妙あるが英軍頗る練磨るも更不其虚と窺ふと能
はず華盛頓も我が兵士のまじり充実する不至らざれば慢り
小軍を進めず只味方の人数と毀へざると昔より戦ふ故
劇戦数刻不及たりとも更不勝負と別つの期あり英將
「ホウハト」採不打推えんと思ひの外亜軍堅固あるが容易不
破り難きと知り其日の軽く兵を引揚物別ととぞ成りおる
華盛頓の英吉利方の援兵次第不加つると云てりやと必死
の戦争と遂る時節不非ずと亦潛る不北の方三里の処へ
陣営と移して北加斯徳の地不退むと云り「ガ」セ子ラア

ル官の大將「レイ」七千五百の兵と授けて、
らしめ、其身ハ「紐折爾西」陣と移し、「弗」理的地の
相互ハ不應援あるさんと構へ、英軍ハ華盛頓ガ本營と破
らんとならば討死も負多きのみて勝利するも更ハ
先その技業と拂ひ除き然し幹と倒す不如すと華盛頓
ガ營へ向はず「弗」理的ワシントン地の地へ兵と向し元帥華盛頓
けしと聞「弗」理的華盛頓の守將「グレン」の許へ使ひて走せて
英軍の威勢猛なり、當り難きとハ急ぎ城と罷き當所へ
来らばとよと言送りけども「弗」理的ワシントンの大將「グ
ン」嘲り笑ひ敢て是と聞入れず謾し英軍と引け

一大戦及び英軍一千餘人と討取り、
難く終つ落城し及び、爰於て「弗」理的地の大将
も英軍の来らぬ先とて急し柵と罷きけし、
軍の手不陥り、元帥華盛頓是と聞き「弗」理的
の守將「レイ」我が指揮と用ひず、強て英軍と戦争し
及び味方の大利と失ひ、兵士の勇気と挫き、
理の地も続いて斯い成往り、
不其詮あらざり、
いとて直し「紐折爾西」の地と引あげ、「費勒特費府」の方
へ退き、
英軍早く是と聞つけ、
圖と拔さず、

取と追迫ると至急ありて首尾眸中へ接しこれに軍
 の従兵大り小憶い皆ぬけくお落うせて「特拉華川と渡
 るころの総軍勢三千お過ず夫すら衣食小缺と今
 嚴冬の氷さる道ふ多し素素踏ゆ足破れて血土小
 印し凛烈なる朔風小弊衣の肌を列かくと夫のこあらず兵糧
 乏しく口小飽と能わぬ武き心の次身小芳と日々夜々小離
 散して苗將帥兵士さく面上小憂鬱と含まざるへさく実小
 英傑の心魂も碎裂すべき期あるとひとり華盛頓へ従容
 とくして屈思あく諸勢の忠義と揚賛し病痾のものと向ひ
 るとて後來必ずするを目的あるとて以て人



の心魂と挫動せしめ斯る大難
 困苦の内小在りて憂慮の色
 と顛りさるるを量の大志とらふ
 べきあり斯く「賓刃の地小入
 り」小勇所々より集りて
 二千餘りの援兵と得られん
 又分離せし兵卒も追々小纏り
 来りて総勢再び七千餘人と
 成りたりり爰に於て華盛
 頓へ早く一軍して花々しき

西洋新書 三編之一

勝と得ざれば味方の志氣と引とて難しと思惟し僥倖
英の軍卒程近き突連登城不跋扈一居まれば先以て攻取
んと十二月廿五日の夜半不朔風凜々烈寒手足の龜むと
覚えざるとも勉めて総軍勢と操出し三手不分け「特拉
華河と三所より押渡り」突連登城及び百隣克敦城
と龍衣ひ攻んと進發せし不河水氷封て渡頭三所とも船
出難し然ととも元帥華盛頓の一隊の困苦と顧みず種々不
勅強して遂に對岸不押上り夫より兵と二手不分け竊々不
進んで「突連登の大手」搦より攻めけり不英軍の不意を
打ととも配りある間もあらずと流石練磨の兵卒あるべ

至急の間不隊せり其処彼処より発炮をともと華盛頓は
今日爰ふて十分ある勝利と得ざれば味方の勇氣と引立
難しと思ひ一人り諸勢不先達て英軍と攻むびり破竹の
勢ひと振ひけり唯々狼狽周章と城兵何れ敵すべ
き一ト支え不して皆逃失せ「突連登城」暫時不落陥り俘
囚一千餘人分捕も若干あり然ととも別の二夕に「特
拉華河」の氷不支えらと空しく後へ引返して「百隣克敦」の城と
攻ざりければ元帥華盛頓も残り惜くぞ思ひしる英軍の総
督「ロルド」ホウハ「紐折爾西」不在りて敗軍と聞き大に驚
き「コロネル」ワリスが「紐約」不ありて本国英吉利へ歸らんと

西洋新書 三編之一

すと時戻し「突連登」を取り戻させんと直ち不是に向は
 るめくり然まば「閣倫華理斯」の急ぎ「波林斯」敦城ま
 て駈付来りけしとらふ一軍の兵と止め総軍勢とらん
 卒して「突連登」ぞ奔向るる元帥華盛頓は是とすき
 総軍と引て出て迎へ二條の小川と前ふ當て陣と占てぞ
 待りけし英の大將「閣倫華理斯」の兵と頻り不押進め亞米利
 加勢と間ひ近き彼方の丘ふ官と構え相對しく白眼あひ一兩
 日と経るるうち次第不味方加るる多明るる弥亞軍とせめ
 りち雄と一時決せん其備とぞ做しとらるる然まば
 亞軍ふ油断るる兩陣不焚燎火へ川ふ漆山不倚り數里

の間不連りて炎氣の天と焦す々と夥おこそ見えとらるる
 華盛頓の今我が小勢と以て英の大軍と戦うひ十ふ一ツ
 勝るとも味方と多く損ずべし況んや敗軍不及か不於て
 おや人氣衰へ再度兵威立ざるべし然りとして休引退り
 ぞうべし組折爾西昂へ全く敵の手不落陥り新兵と募
 るの道爰不絶るん如何做して宜しやんと軍慮不黙然
 とらるるが既不して一計と案ぞ出陣營ふ僅くの番兵
 と止めて燎火と盛ん不焚揚させ自ら総軍と率ひ閑道
 と押廻り英吉利勢の後方へ出て「波林斯」頓へ攻め
 英の大將「閣倫華理斯」の椅子不めりく終夜眠らす亞

軍の方と打詠め居りし夜半に至り燎火の光り倍盛ん小昇ると見て新子の兵や加る成んう然まども夜明あべつ當あてて微莖小成んと勢ひ込んで俟けり時華盛頓へ頻り小兵と急ぐ敵拵近くぞ成りけり又一波林斯敦へ今日いり大將閣倫華理斯が亜軍と討の布告あまは是が應援と爲んとて二大隊の兵操り出り来り夜將小明んとあつて一條道の曲り角ふて華盛頓が先手の勢と思はず礮と往あひ兩軍鼻と突合すとば発炮するの暇なく双方とも銃炮の莖尻振んで振りうごり叩き合とぞ成りたり然まども亜軍の筒は

取集めりの小く劔の付いり英軍の筒は皆尽く劔付をといひ劔先小突立られ加之不意と討んとて不意と討れらる小似とて亜軍の先鋒忽地破らと二陣と差し顔れかる華盛頓は是と聞き甚直小走り来り自ら陣頭小進んでを二三小押かり勝誇りける英軍と五歩六歩追ひ戻すは勢ひ小引立らと大將討す返せ戻せし今も逃る兵卒も身と捨りてり返り激浪の如く押菟し元より不意と討とる英吉利勢の多あまは最初の勢ひ漸く挫け次第小踵と廻らせが果に逸足出り右往左往小敗走す華盛頓は閣倫華理斯が大軍と近き後方小扣

えとまへは是と追ふ疾風の如く
 直ち小波林斯敦城に附入れ
 城兵是と防ぐと嚴密な砲す
 といども華盛頓の物とも思はず
 飛来る玉と風が散る木の葉の如
 く煙氣を侵入し進撃すとい
 諸軍是も勇まき我劣らうと
 競ひあつた猛勢のりて敵せん
 英軍漸々逃失く波林斯敦の
 一城須臾小華盛頓の手小落陥り



プリンストン城の落陥の跡

三百人でぞ俘囚とありる爰に又英軍の大將「閣倫華理斯」其夜
 將不明とする時早総軍と操出さんと整列して組折らう「波林
 斯敦」の方不當りて砲撃の音き夥多奔りけと急ぎ弁候
 の兵と出さる密に小川と渡りて華盛頓が陣營と窺ひする
 不焚残る燧火のふす煙をのこして敵兵一人も見え
 ざる由あるに「閣倫華理斯」初めて亜軍に欺れらるを知り
 暫時居て居らう「プリンスウイキー」の地不多く兵糧と込め
 かきこぼしけ処と採らして一大夕と自ら諸勢不先達て援軍
 りさんと走らうり華盛頓もま「プリンスウイキー」の城で乗り取
 るんとあつた「突連登」の英軍採て返り援ひ来ると知れば残り

惜くも攻さるゝ斯く「波林斯敦城」の大將「ヒエトナム」の一隊の兵と
授けて守らせむき元帥華盛頓の総軍と引卒しく「モルリス
トンの地」に退き暖和の時節の至ると俟ち成る軍と避んと
するの必竟衣食彈藥の乏しき故とぞ聞えり爰ふき「波林
斯敦」に止りたる大將「ヒエトナム」の僅の小勢と引具しく「籠城」と
爲しとぞ扱臨に衰ふ應ど討て出で全島各所の英吉利勢
と追おらひ切從ぐ俘囚とするもの一千餘人不及びるに比類
稀る働きふぞ有るけ度の戦争実ハ華盛頓が深慮ふこ
うおす兩度の勝利ふけ日頃沈み果る亞人等が心の愁憂を
恢復せむと輒の射の雨と得てまゝ大江と凌ぐんとするの勢

有るが如し然るに英國との戦争及はざるをと思ひ既ハ降参の
心組ある國々も又漸く小色と直し合戦ぬんと思ひしとぞ前ハ
突連登城ハ勝利と得しとき國人ら喜び不堪えず其根元ハ
能ハ得知らず唯「紐折爾西」のりの大新文として市街の中を狂
ひ走り或ひハ互ひハ往通ひし其噂の紛々たり元帥華盛
頓ハ「モルリス」の陣ハ在り英將「閣倫華理斯」ハ「ブリュン
スク」井ツキハ在陣ハ互ひハ兵と出すとあり白眼あひぞ
居りけり一日「閣倫華理斯」より「華盛頓」の許へ使者と
以て傷人病人へ与ふる飲食の料且ハ手當の藥品と株寄
せしむる陣營の前と通しぬるべし餘戈をき風情

西洋新書 三編之一 二十一

あて云ひ越一けとべ「華盛頓へ速く不請諾して陣所へ觸
渡し更不妨げと為さるり其大量寛不過るが如く成れど
もけ頃兩度の戦場にて軍功ありける華盛頓が旗本の兵
士の話一我大元帥へ智仁勇備りて指すところなき大
將あるととも疵とみるもの一さあり其故ハ戦場不臨む毎不
如何多る危ふき場所不ても真先不進こ自身の死するど
更不構らず是ハ味方として励さんとのさるらんが夫ハ一同
當惑せり然とと天の擁護不やあるらん今日までハ安全
あり以後も猶神の助けと願ふのこと云り」と名へ厳ある
時不ハ嚴あるとハ一事不て知るべきあり斯て春も過ぎ復も

立木の葉色つ、秋も又九月始め不成けとハ英軍の大総督「ホ
ウ」諸軍勢と引卒く「費勒特費府」と攻取んと「紐約」の
本營と進卒為すより聞えけとハ華盛頓ハ急ぎ一軍を引
「モルリストーン」と出立「ブランシ川」の傍らあり「チャドスホルド
」と云ふ地まで出張為し以て不陣と敷費勒特費の路と断
切り英軍今やと待かけたり時不九月の中旬不至り果して
英軍雲霞の如く「ブランシ川」の彼方不現を先鋒既不我
陣へ押かり来り」と只一戦不く追戻し一息休んとす
折ら後陣の敵軍ありと河と渡り横合より討て蒐
まべ前軍もまき一整合不取て返し大浪の如く押し来ま



英軍も奮激突戦して追つ返
 して打合ふ弾丸更ふ勝負の
 付がりりりは時間道とまの
 りて英軍の分隊既ふ十七里
 ほど費勤特費の方へ打入
 りて府中甚ど危ふりまど
 と言とを紛々々々兵士
 の心不疑惑と生れ戦ひ少く
 撓るるに亞軍終ふ利と失ふに
 費勤特費まで引揚ぐる

然とどゆけ度の敗軍の討死も負少るま故う味方の勇気
 猶屈せず揚々として見えけと元帥華盛頓の再度兵と
 出し英軍へ逆寄し猶も雌雄と決せんといふ既ふ全軍と配
 敵營と差し押進めたる不折悪く強雨降り注ぎ兵卒
 火薬と湿らせると止むと得ず半途より府内と舟し引
 戻しぬけ処において華盛頓も時の至らざるに歎息し諸將
 と相議りて「紐約府の例に倣ひけ処にて戦争せんより」ハ
 如く「費勤特費府と英軍の舟不渡り市衢の家居不害
 をらえめんおいとて俄に「デラワレ川の傍りにお究竟の要地と
 撰み二ヶ所の堡城と構えて以て総軍と早くけ処へ引揚

西洋新書 三編之一

敵「費勒特費」押入らば「嚴」四方の通路と断切り他の
英吉利方として「應援」さすると「を」ら「を」んと計「技」ら「英」
吉利の大將「ホウ」の「亞」国の軍勢府内と「落」亡らると「聞」き
直ち「不」費勒特費「兵」を「操」り入ると「今」ハ「華」盛頓も「恐」
ろ「不」足らずと「猛」威と「振」ひて「足」ら「り」ら「う」爰「不」さ「る」英「音」
利の北部の大將「エルゴヤン」の大軍と「引」從へ「加」拿他「刃」
より「討」入りて「路」々の「亞」軍と「追」散し「屋」を「焼」倉庫と「焚」き
「法」徳「義」都「華」の地まで「押」入り「ラ」グ「ベ」ニングトン「ハ」
「亞」軍の「兵」糧「械」械と「多」く「蓄」へ在ると「聞」出「コ」ロ子「ル」官
の「ホ」ウムと云ふ大將として「ニ」ングトンへぞ「向」おせ「る」然「る」不

「ニ」ングトン「府」を「守」り「る」「亞」国の大將「マリト」スタ「ク」ハ「殊」不
敏捷性「を」ば「は」り「と」「聞」と「整」兵と「引」て「半」途「不」待「受」勢「ハ」
「猛」不「押」寄「せ」來「る」英「吉」利「勢」を「噤」止め「散」々「不」討「破」ま「バ」英「將」曰
ル「ゴ」ヤンの本陣より「援」兵「走」付「來」ると「雜」ども「是」と「さ」へ「追」散し「大」
將「ホ」ウ「ハ」不「重」傷と「負」せ「兵」士と「俘」虜「不」する「と」數「百」分「捕」の
器械も「若」干「を」ば「亞」軍の勢「ハ」盛大と「成」り「英」の大將「エルゴ」
ヤン「ハ」熱「い」る「と」して「味」方の「氣」折りと「引」出せ「ル」如「す」
「ハ」処と「捨」置「阿」而「別」尼の地「不」至り「味」方の大將「シン」ト、
「レ」ケルの「兵」と「ツ」不「成」ん「ハ」いと「其」を「配」り「と」る「と」も
「亞」軍「嶮」岨の地「不」依り「往」方の道と「速」り「と」ま「バ」如何「ハ」做「さん

と思ふうち亞米理加方ハ「ゼ子ラル官の「ゲート」北軍總督
の命と請て「フヒスキユル」と云ふ地まで出張し「ゼ子ラル官の
「アルブルド」と云ふ大將も続いて到着し「アム」亞軍の勢
は倍猛り爰に於て英將「ブルゴヤン」ハ其終に捨置けんと
総勢を引卒して「スチルラートル」と云ふ処まで押出せし亞
軍の大將「ゲート」も此夕と聞と整へ早く人数と操出し
英亜の兩軍遂に軍と接し「不至り」大砲小銃の音夥しく追つ
返しつ終日攻戦ひ勝負と分せずと雖も兩軍疲れて相引
分と一後ハ五ひに戦争の擬勢を瞋合てぞ扣えし
十月七日兩軍再度兵と接し劇戦數刻不及し「英軍」遂

不討破られ大將「ブルゴヤン」ハ「サラトガ」の地まで辛く引退せし
ども兩度の戦争に兵卒二万余人と失ひ手負病人二千餘
人不至し今如何不とも詮術を話路と求むるの外を
り「アム」亞軍の大將「ゲート」兵と四方に分け配りて出口を
と塞ぎしけし英將「ブルゴヤン」ハ爰に百計尽て以て遂に五
千七百餘人の兵士と軍器五千と差出し「アム」亞將「ゲート」が
軍門に降を乞ひく参りけし英吉利の手に陥り北
部の國々も漸く亞軍の方へ戻り案下再説費勅特費
府不在の英軍の總督「ハウ」ハ「テラワレ」河の砦に屯集
あり元帥「華盛頓」が軍と討んと一隊の兵と止めあき

自身ハ総軍と引具一て「日耳曼邑」の地より出張あり
 ころけ時元帥華盛頓が兵一万余不足らざる而已るらず
 器械彈藥小乏く服破と奮切とて兵卒過半ハ素靴
 ありとバ元帥ハことと深く挫恤り自身も兵卒と困苦と
 同ぢり衣服飲食一ツりて是と異なるをけとバ諸
 卒も偏ハ華盛頓が徳と慕ひて怒めるの色あるとあり
 因りて華盛頓ハ猶一戦と試んと思ひ全備せ兵ハ既ハ
 春中「チコンデロガ」の地の大将「ゲート」の許と「モントゴメリ
 イ」の地の大将「ボット子ム」の許へ分隊して應援をせしめ
 ける故ハ切迫の由と告て早く兵士と戻し兵らとよと言送り



華盛頓
陣中
患者と

けども「ゲート」も「ボット子ム」も
 多不託して援軍と返さず然れ
 ども華盛頓ハ既ハ戦いと決
 して「バ」勢ひ止めて諸軍ハ令
 して「セラワレ」河の砦と立出て
 不意ハ起つて「日耳曼邑」の敵
 陣へ其処彼処より討入るとバ
 英軍大いハ狼狽周章銃と
 丸と立騒ぐと亜軍ハ爰ぞと
 攻蒐て敵と討て大方あらず

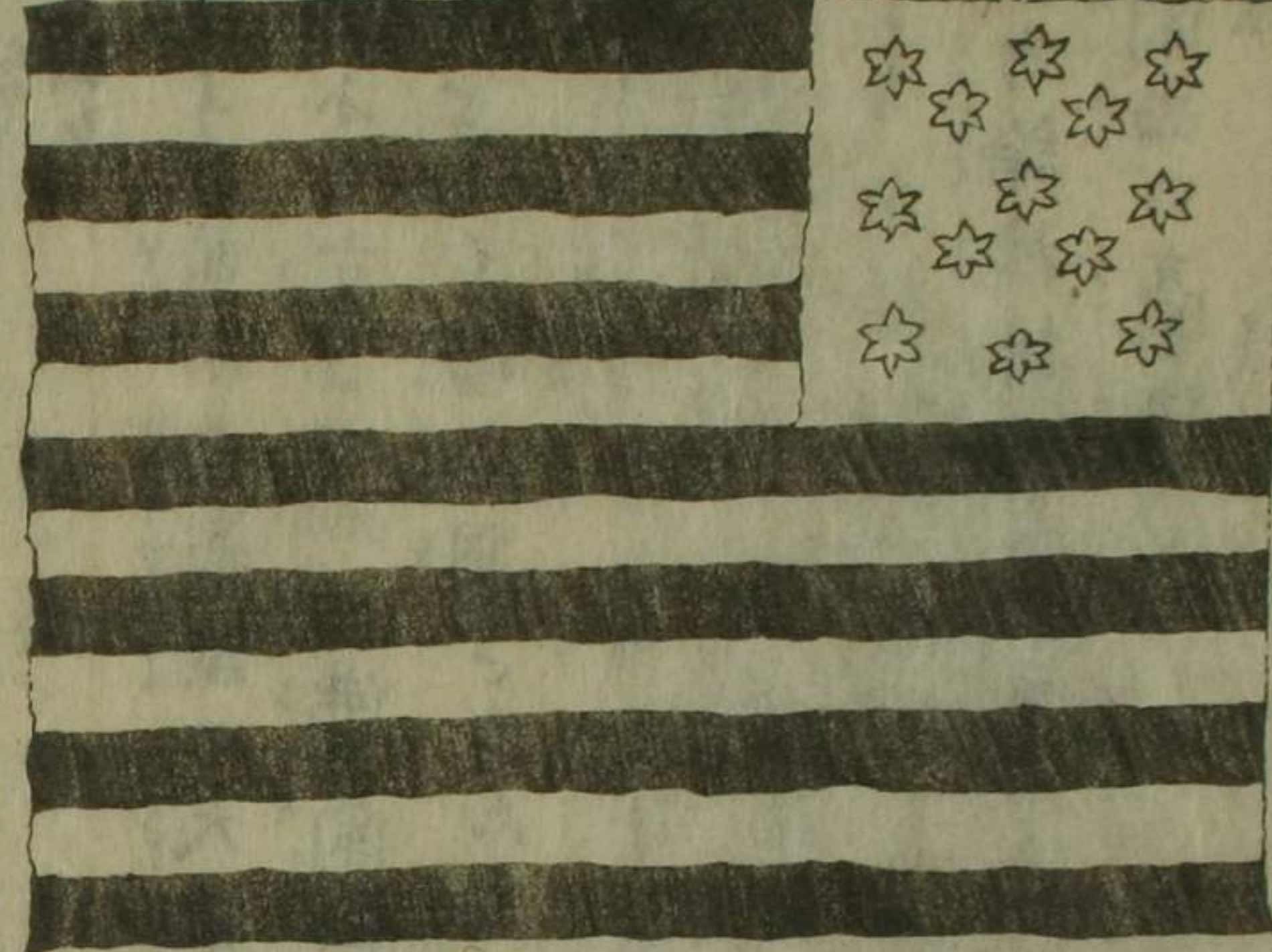
然ととも流石英軍へ構り切る精兵を以て總督「ボウと
始めとく踏止まり守返し戦ふ者も澤ある故又追々色
と直し劇戦するに三時不及べ亞軍へ次第に弾薬つき
稍敗せんとぬる時一もあると四方俄に霧を傘し咫尺を分
る程を以て敵も味方も混乱し果に双方共崩れと成
りて引退き華盛頓へ猶「デラワレ河の砦に陣し英將
「ボウの「日耳曼邑も止り得ず総軍断離し小成りて
或ひは先立或ひは後と費勒特費府まで退きけるに時「合
衆國より「佛蘭西國不出張り居る「佛蘭克林とりの
大將より添書を得て「ボウランド国の「コスシユスとのり者

軍役と勅めさせ由て以て来りけり「華盛頓へ面會して
「合衆國自立の爲の戦争ふかと添へ給へらんと其由縁
解し「と一言ひけり「コスシユスの免も角も使ひて試みて
へとある故先其意を任しけるに者築城の術も妙を得
て数々勲功ありとある又佛蘭西國の「ラフヘトとりの人近頃
妻を失ひたる哀しみの心慰めとして遙々「合衆國へ渡り来り
新國自立の爲の戦争ふかと添へ戦えとては陣営も加り
たり亦「紐約府の人「アレキサントルハミントンと言ふ者あり
昨年よりの戦争も援軍の功名有りしがけし時「華盛頓
の陣所へ来ると元師も是と軍事を談ずるも亦二十歳

の若冠るとも敏捷ふりて老実あり其人身體小ありといハ
 ルリスワンと云ふ大將は是と小獅子と字一「華盛頓」ハ
 供小供と呼びて二の者とぞ頼りて其後小至
 り合衆國のめふ大功業と現へり其名と後世ふ夷々せりハ
 世の人の知る所あり斯て其年も暮て明とバ千七百七十八
 年今より百四年おの正月合衆國の公會呀ハ是とて費
 勒特費府ハ在りしとど英軍爰ハ入りてより「約邑」の地ハ
 移しとりしが公會所ハ於て國旗の記號と定めたり其
 文ハ曰紅と白の十三の横線の共和同盟の十三品と像と
 青空ハ十三の星の數と顯いせりも是とて同盟の十三品ハ表す

と云々
 是より前ハ合衆國の大学者「仏蘭克林」とり人ハ前
 條ハも言さガ如く佛蘭西の首都「巴勒」ハ在りて合衆
 國として獨立國とらんとして計り居たりしが遂ハ千七
 百七十八年今より九十四年おの二月「巴勒」ハ獨
 立國の礼と以て佛蘭西國と和親の條約と取結びり
 より自後仏蘭西帝合衆國へ助力合射し軍艦兵卒
 ハ勿論機械彈藥等も送りて専ら是と扶け殊ハ仏
 蘭西の豪將「ラペット」と云へる人ハ潛ハ亞軍へ助力して
 是とて屢英軍と戦争ハ及びりるがハ時よりしてきり

印し旗を国々飛も合じカリメア



尽力考へしとも始めより俸金
 と請ず唯弱きを助くる義氣
 と以ての故ありとぞ爰あま
 費勒特費ふ屯る一とる英の
 総督「ホウ」が諸勢の府内小空
 一と年と越て亞國の砦へ兵も
 出さず二万の大軍安閑と評
 諷ふ月日と費すの華盛頓が
 軍小向ひ度々懲り「も」
 あり然し「英將」ホウの英吉

利政府の首尾宜しからずや同年五月免識して本國へ呼戻
 さま代りとして「ヘンリイ」クリントンと云ふ者亞國征伐の大
 総督と命ぜらるる次で費勒特費府不在陣あり総軍勢
 と指揮して以て種々小軍慮と運り「アメリ」加方小も
 費勒特費の諸方の通路と断切て其應援の道と塞ま
 ことども援兵とて出せし人数と各所へ引止め戻さしむ
 軍卒不足ありし手配り嚴らざる然る小英將「ホウ」の免
 職して本國へ歸り「イ」クリントン代りて総督と成りしより
 聞えけし其混雜の時小「ホウ」費勒特費府を取戻
 さんと既に進致手の準備做せしとぞ「弾薬」の不足あり

とて餘戈を延引くる内如何ある計策をや運らう
 けん六月ふ入り英の総軍俄く小府を圍き「紐折爾西と
 経て「紐約の方へ引揚往らえ元帥華盛頓の大將「ロー
 「グレン「ケベツト「ウエーン等を將いて是を逐り「モンモーツと
 云る地ふて先手をや英軍が攻めり「小亞軍先鋒の副將「ロー
 華盛頓が功を妬んで「子の勝んとて恐ま忽地引揚の下知
 とあすの退く者あり進む者あり軍中大の混雜を生
 却つて英軍が追討まんとあるありさまは「元帥華盛頓と
 始め自餘の大將爰も必死の力を極め時移るまで攻くる
 亞軍の旗色漸々進み既小盛ん小成一とき夕陽西小傾き

ことば餘戈の両軍兵と収めぬ然れど「亞米理加方の戦場と
 引去らず終夜火包と調べ巢口と磨き元帥華盛頓始
 め木の根小腰と打掛て明るの雌雄と決せんと勢ひこんでそ
 待かけり
 け戦争終り後先鋒の副將「ローグ振舞心得難
 とて公會野の詮議とるり「上「ロー「ハ「ケ年のあつて
 将帥の官と放さざれば斯月すぎても再度官小出
 ざるとそ
 再説英吉利方の新総督「ミン「ライ「クリントンに全軍二万
 人と引卒して「費勒特費府と引揚「小亞軍のぬ追

討と既すなはち破やぶれんと為なり折ひくら日ひ輪りん西山にしやん傾かたむき僥倖やうじやう小物せうぶつ分わき
と成なり遙とほく引退ひきひき陣取ちんしよとれど亞軍あぐんの猛勢まうせい容易やうい小當せうたう難がたき
と名なひ陣營ちんえいのはた彼處かこ不ふ算さん火かと焚殘たきざん総軍そうぐん潛ひそみ夜よ不ふ紛まれ一いつ紐約にういよ差
てぞ落おちり抑おさげ戦争せんそうの盛復せいはつの真直まっし中ちゆうあて統とく日照にじやうり小大地せうだいち
燒やけ炎熱えんねつ燃もるが如ごとく是こゝの英えいの軍卒ぐんそく六十餘人よそあひん亞あの軍卒ぐんそく
七八人しちぱん唯ただ一いつヶ野のの底そこも暑あつき暑あつき不ふ當あたりて斃せとととぞ
斯かくて後のちも英亞えいあ兩國にこくの人々ひとらは彼處かこ不ふ戦争せんそうして或あるひい
勝かち或あるひい負まけ雌雄しゆうじゆうと決けつりがらうして三年さんねんと経へふらるが千七百
八十年はちじゅうはちじゅう今いまより百一年ひゃくいちねん前まへ不ふ至いたり英えいの將軍しやうぐん閣倫華理斯かくりんわりすの
南格勒爾那なんかくれに那な那なより進すすみて一いつ約邑やくえいの地ち不ふ陣營ちんえいと構くまえ哥か

羅塞德爾らさつていの地ちとも兼守かねまもりて其勢せい七十餘人しちじゅうしちじゅう屯とんすは時華盛じやうせん
頓とん一いつ紐約にういよの英軍えいぐんと討退うちひけ府ふと取戻とりもどさんとして諸將しよしやうと
相あ議ぎし各整かくせいし一いつ工夫くふうと費つひやし在ありらるが今いま閣倫華理斯かくりんわりす
全軍ぜんぐんと引ひく一いつ約邑やくえいへ出張しやうちやうと聞きや否いなや忽たちまち地策ちさくと寢ねん
総勢そうせい一万二千いちまんにせんと引具ひきぐし疾風しやくふうの巻まが如ごとく不ふ押おせ直ちやくし一いつ約
邑えい不ふ至いたり敵軍てきぐん不ふ切迫きつぱく佛蘭西ふらんせいより應援おうえんとして来きり
数十艘すうじゅうさうの軍艦ぐんかんふて河口がわの通路つうろと鎖かし一いつ紐約にういよよりの應援おうえん
と断切つたきり且かつ一いつ約邑やくえいの兵へいの逃にげ口くちと止とめ同月六日どうげつろくにちの早天そうてん
より元帥げんすい自身みづかみ総軍そうぐんと進すすめ四方しやうはう同時どうじ不ふ攻蒐せめくまは英將えいしやう
閣倫華理斯かくりんわりすも全軍ぜんぐんと引具ひきぐし討出うちだす双方しやうはう必死ひつしの戦争せんそう

不及ふと十四日小至り英軍次第小押迫らんと漸戦ふ擬勢尽
 て同月十九日英将「閣倫華理斯」全軍七千餘人と引具
 終小華盛頓の軍門小膝と屈め機械と投げて降伏せり
 華盛頓が「約色」への出軍極めて神速あり「紐約」小
 在る英軍等は是と知らざりしが追々聞出り大い小敬馬さ
 兵船数艘と突いて「約色」へ後詰めせり「閣倫華理斯」が
 降参の日より六日と経ての後をさば如何小とも詮方あり
 援軍の兵卒等「空」く「紐約」へぞ船と戻りぬ再説華
 盛頓の勢ひ小乗じ猶「紐約」府と取戻さんと其用意
 頻りあり「小英國」の軍陣小て「閣倫華理斯」が亞米

理加方へ降参してより兵威大い小衰へ往戦ふ擬勢ぬけりとい
 専ら和睦の議論起り千七百八十三年今より九十九年おの
 一月二十日「小蘭西帝」の扱ひ小因りて合衆國今より「英國」の
 管轄と放し獨立不羈の國あるを以てあり「小英國」王是と
 請諾あり「英吉利」より「ピッチユルベルド」と云ふ人及び「マスワ
 ルド」と云ふ人兩人合衆國より「ジョージ」アダムス「ベン」ヤンフ
 ランクリン等の人人使節とて「小蘭西」の首都「巴勒」小於て
 集會し和義新小調ひり「レキシントン」の合戦とを始め
 かく「約色」の一軍小事終るまで七年の間大小の戦
 争二十九度お及び八年ぬ小く始めて炮声止ふり

初代
大統領



華盛頓
肖像

國人安堵の思ひを為せし華盛頓が功績ありて道理ある
る華盛頓と国父と敬まひ
尊ぶとや然といふ華盛頓の本
営より和議交親の成りより
旨と十三刃へ告知らせ同年
十一月華盛頓へ全軍を解て
各所へ戻し自身も元帥の
任と公會の廳へ返り飄然
とて家園へ滿注諾の家へ

帰へり斯く後我十三刃の父老公會所へ打寄り相談り
て云ふや我合衆国の軍兵は皆農商の人を以て離散して
耕作商賣とてとく仙蘭西の援兵は本國へ帰陣し華
盛頓も元帥の職を戻して田里へ歸るといふ英吉利王若し
盟約を破り再度軍艦とて向けば何と以てこれと拒か
ん且合衆國の固より首領の人を以て公事訴訟あると
いふ難う宜く裁判せんや今より君長を立て法度と定
め永久の治安とせよとみ如ず然りあたらんと撰らして
君長と立よばその一代の善と雖ども子孫ありてり不
賢の悪人出来て政事不怠より宴游も長し暴虐悔

慢のりあらは國家の乱とも引出すべし然れ先華盛頓
 と首領と為り華盛頓の死後ハ衆評を以て賢者と擇
 ひ夫を代りと為り其任四年を以て限りと定むべしとて
 衆議一決し千七百八十九年今より九十二年の四
 月三十日強て華盛頓を推して大統領の職を任じ
 とけ官の監鯨といふより華盛頓職を在りて八年
 あり難と平らげ危を救ひ文と揚げ武と講じ賢能
 不任とて公明と宗とせしむ四民大平の化を浴し農商日々
 夜々富む合衆國の芳名遠く四表を達するを女とり
 千七百九十一年位と約翰阿丹子に譲り再度故の田

園を歸りてまこと猶みある時ハ國家のめも尽力を多
 くりしが聖齡六十七と一期として黄泉の客と成往し
 及び其凶聞共和の各々不達し諸民父母と亡多如く
 大い力を失るひろまづバ四境自づと愁然たりたり
 フスリステットと云ふ人此君を評して華盛頓ハ事ハ
 臨んで周詳なり慎んで密なるが故に功業顯えずハ
 ミトングと言はし人政を従ひて其功鉅大なる如し
 華盛頓の名歴史に載せ後世に殘す不足と雖も時
 の人尚黨を植て華盛頓が罪あると誹謗り華盛頓
 深く是と感激す千七百九十七年大統領の任満る小

及んで洒然として田園を帰る賢豪の行ふ野を以て
 自ら行ひ經濟の材と韜晦世と相遺きて恬淡小歳
 月と竟り齡六十七にして卒す共和の國人皆痛悼
 名と都府を命じて其功業と後世に垂る君卒する
 小臨之遺言して孥隸と全遺一金と官を獻じて
 大学校と閣竜比亚を建南亞米理加のゴロン又貧兒校と
 其地を造らむ葬り地を華盛頓の別荘モウン
 フルンに在り土人いさぐ此大家の爲に記念の碑石
 と建ず又一片の墓の碣に其功業と記して以て家塾と

蓋はず然ども歴史に不朽の名を留め墓碣に彫るの
 不代も豈復未むる所ありんや華盛頓容貌尊
 嚴其才以て政事と執る不足り其勇以て不羈の
 大元帥たり不足り事に臨んで凝重りたる百難
 競ひ起り勢ひ極めて重大なる小至るといふもいま
 嘗て挫け折す國に忠あると百折するも銷磨せ
 ず政に臨む小國體を失ざるを以て主として邦と
 尊ふ人民と繁行し恩を施する一日も是と遺
 事せず其つるも皆根に據つて私の見と主張せ
 ず事不処して嚴正をまとも仁あり此華盛頓の天性

とすまこと誠まこと小敬せうけい恭こう愛憐あいれんをおん大業たいぎやうをおん為な偉功いこうと
建たつたべべたた奇き男子なんしをおんとと云いりり

西洋新書三編上終

